インプラント治療のお話 part3

その10

下の歯が全部なくなってしまった時のインプラント治療

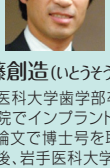
【下の入れ歯がうまく使えないときはこんな治療！？】

前回は上の歯がなくなってしまった時のインプラント治療についてお話させていただきました。今回は下の歯が全部なくなってしまった時の話を詳しく解説します。

その前に、下顎の歯が全部なくなって入れ歯を使っている方は、「入れ歯が外れて困る」「食事の時に噛むと痛い」「話がしづらい」など多くの不都合を我慢して入れ歯を使っている方が相当数います。この悩みを、取り外しの入れ歯では解決するのはなかなか難しいので、やはりインプラント治療ということになります。これまで説明したようにインプラント治療はご自身の骨に付いているインプラントが支えになりますので取り外しの面倒や外れるということはありません。また、噛む力を支えているのが顎の骨になりますので噛んでも入れ歯のように痛くはありませんし、かなりの食品を噛むことが可能です。

前回、全部歯がないケースで上顎と下顎でどちらのインプラント治療が難しいと思いますか？という疑問に、単純な比較は難しいですが上顎のケースの方が難しい場合が多いとご説明しました。下顎の骨は上顎の骨に比べて比較的硬い部分が多く、手術の時にインプラントがしっかりと骨の中に固定できるので、手術当日に取り外しをしない固定性の仮歯を装着することが容易に可能なのです。では、下顎の手術で難しいところはないのでしょうか？残念ながら骨は硬くても細心の注意を払わなければならない点が存在します。下顎の骨の中には下顎管と呼ばれる大きな神経と動脈が通っている管が存在します。この管を間違って損傷してしまうと神経の麻痺が起きたり、手術中に出血が止まらないといった、起きてはいけない事故につながります。従ってインプラント手術の際は絶対にこの下顎管に近づかないようにインプラントを埋入します(そのためにはCT撮影が必須ですし、CTデータを基にしたシミュレーションによって下顎管を避けて埋入するガイデッドサージェリーが必要になります)。また、この下顎管はオトガイ孔と呼ばれる骨の穴から頬側に分岐して骨の外に出て行きます。オトガイ孔は左右にありその骨内前方は小さな枝に分かれて行きます。従ってオトガイ孔から前方は、下顎管をあまり気にせずにインプラントを埋入することができるのです。そこでオトガイ孔間の骨を最大限に利用してインプラントを埋入する方法が上顎同様前回も紹介したDrポーラ・マロが提唱しているALL-on-4と呼ばれている方法になります。この方法だと下顎管までの距離がなくてインプラントが安全に埋入できないケースも、より安全な部位を利用して斜めにインプラントを埋入しインプラントの長さと方向を有利に働かせています。これにより多くのケースで4本のインプラントによって下顎の12本分の歯を支えるように治療ができるようになったのです。そして先ほども説明しましたが下顎の骨の特徴と有利な位置へのインプラント埋入によってインプラントをしっかりと固定することで、手術を行った当日に入れ歯のように取り外しをしない、固定性の仮歯が装着できるようになります。手術当日から入れ歯を使わないですみますので最初に解説した入れ歯にご不満の方には利点の多い治療方法です。

ただし上顎のケース同様にCT検査を受けていただき、コンピューターによるシミュレーションでインプラント治療の可能性を判断しなければなりません。



伊藤創造(いとうそうぞう)

岩手医科大学歯学部卒業、大学院でインプラントに関する論文で博士号を取得。その後、岩手医科大学歯科補綴学第二講座の講師として臨床等で活躍。1991年にトロント大学に留学。2014年におゆみ野インプラントセンターを開設。

岩手医科大学臨床教授、日本補綴歯科学会・指導医、日本顎顔面補綴学会・認定医、日本歯科審美学会・認定医。国際口腔インプラント協会(IDIA)・Mastership。

おゆみ野総合歯科クリニック

☎043-300-3939